

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	0572609832
法人名	有限会社 すずらん
事業所名	グループホーム みずほ
所在地	秋田県仙北郡美郷町土崎字厨川67番地2 (電話) 018-816-0577
評価機関名	財団法人秋田県長寿社会振興財団
所在地	秋田市御所野下堤5丁目1-1
訪問調査日	平成21年10月9日

【情報提供票より】 (21年 9月 21日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成16年5月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	7 人	常勤	6人, 非常勤 1人, 常勤換算 6, 8人

(2) 建物概要

建物構造	木造	造り
	1階建ての	1～階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	20,000 円	その他の経費(月額)	12,500 円	
敷金	有 (円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり	900 円		

(4) 利用者の概要 (9月 21日現在)

利用者人数	9名	男性	3名	女性	6名	
要介護1	0名	要介護2	3名			
要介護3	3名	要介護4	1名			
要介護5	2名	要支援2	0名			
年齢	平均	82.2歳	最低	68歳	最高	93歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	市立角館病院・仙北組合病院・高山歯科医院・柳田医院・藤島医院
---------	--------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは自然にあふれた環境の中にあり、入居者が安心して穏やかな生活を送っている。職員も自然体で接している。行事は近隣住民に参加して頂いたり、地域ボランティアの受け入れを行ったりしている。また、避難訓練等にも地域の協力を得て実施、職員も利用者も地域の方々と「顔見知り」となっており、地域の中で、日々の介護・支援を実践しているホームである。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価においては、特に改善点はなかったが、入居者も介護度が進んでおりそれぞれの機能低下に伴ったケアの向上を意識し取り組んでいる。 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
重点項目②	地域との交流など自分たちのケア内容を点検し職員間でも話し合い自己評価に取り組んでいる。今後もより良い支援が続けられるように期待する。
	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
重点項目③	入居者の生活状況や外部評価報告、地域の交流などをテーマに話し合いがなされている。民生委員の方の協力が大きく、これからは不安を抱えている在宅介護者の知識や介護技術等相談支援に取り組む予定である。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
重点項目④	入居者の様子を月1回郵送で伝えている。その他に変化があれば、家族と連絡を取りながら対応している。入居前に、ホームの雰囲気慣れてもらい、スムーズにホームの生活に馴染めるような入居の仕方について、検討中である。
	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	選挙や敬老会の参加やホームの行事参加、ボランティア等の受け入れ等、日常において地域住民との積極的な関わりに努めている。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	自立支援を理念とし、尊厳と生きがいのある生活を支援している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 運営者と管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	自立支援に向けた介護の在り方を目指して取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	選挙や敬老会への参加、ボランティアを受け入れて住民との交流を大切にしている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	運営者・管理者及び職員は、自己評価の意義を理解し、常に評価内容を意識してケアの質の向上に努めている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	行政担当者、民生委員、家族代表、利用者代表、運営者、管理者、ホーム長が参加して開催している。入居者の生活状況や外部評価報告、地域の交流等をテーマにして話し合い、意見交換が行われている。会議で検討された意見は、ホームの運営に活かしている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の担当職員と介護保険制度等でわからない事や、不安な事を相談をする等、連携を図っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月の請求書発送の際、健康情報や、生活の様子など個々に作成して送付している。体調の変化などについては、電話などその都度報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書に苦情受け入れの記載があり、入居者、家族が気兼ねなく話ができる状況を作っている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動先は隣接している有料老人ホームであり常日頃から交流がある為、入居者のダメージは少ない。また前任者がホームに顔を出す等、入居者に不安を感じさせないように配慮している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、運営者自身や管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間研修計画を作成して、職員の積極的な研修参加を促している。研修に参加した職員は、内部研修等で報告し、職員が研修内容を共有し、サービスの質の向上に繋げている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、運営者自身や管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会等の参加で、他事業所職員との交流や意見交換をしてお互いのレベルアップに努めている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう本人又は家族等と相談しながら工夫している	利用者・家族が納得してスムーズに入居できるように、話し合いや見学を通して、ホームの雰囲気に慣れて頂くように努めている。また、入居者が、いち早くホームに馴染めるような方策について検討中である。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	花の名前や手入れの仕方、食材の調理法、昔の生活などの話題を聞きながら支えあう関係が築かれている。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は利用者に関心を持ちながら、入居者の意向にできるだけ速やかに対応できるように努力している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	家族や利用者の意見を取り入れながら、モニタリングやカンファレンスを実施し介護計画に反映されている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的な見直しを、担当者会議を開催し行っている。また、入居者の状況に変化が生じた場合など、家族に意向を確認しながら随時職員と話し合いながら介護計画を見直している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	経管栄養が考えられた利用者も、担当職員の対応で今までと変わらない食事を摂る等、家族の意向や利用者の希望に出来る限り柔軟な対応が出来るように、努めている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ほとんどの入居者がかかりつけの医師、薬局を利用している。定期的に状況の報告、受診等協力を頂いている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	予測できる段階で、家族の意向を確認し、主治医との連携をとりながら統一した支援ができるように、管理者・職員が方針を共有している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は、人生の先輩であることを意識しながらも、親しみのある会話に心がけている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者のペースに合わせた暮らし方を優先し、充実した生活ができるように支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者は食事の時間を楽しみにしている。調理に関しての興味のある利用者は下ごしらえ盛り付けに参加して食事を楽しんでいる。また、利用者は能力に応じて片づけを自主的に手伝っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて、入浴を楽しむように支援している	体調チェックを行い本人の希望を聞きながら入浴支援を行っている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	毎日の生活の中で役割ができています。朝の掃除が中心となり継続されている方、食事の下膳、食器洗い、米とぎ等自信につながるように言葉かけし、支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日中自由に戸外に出で散歩や日光浴など、それぞれにあった支援をしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに努めている	夜間の施錠以外は常にオープンになっている。天気によい日は、窓の開閉も行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回避難訓練を行っている。地域の消防団、ボランティアの協力も得ながら実施している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量チェック表を利用しながら摂取量の把握に努めている。必要があればメニューを変更する等調節し支援している。水分量の摂取にも十分な配慮を行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や臭いや光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間には、ソファと畳のスペースがありそれぞれの状態や、気分にあった生活をされている。散歩で摘んできた花等も飾られて、季節感を醸し出している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	私物の持込みの制限はなく、仏壇を持ち込んでいる方もいる等、利用者個々にとって居心地の良い居室となっている。		

※ は、重点項目。